

令和3年度 決算の概要 (上下水道局)

別府市水道事業会計

1. 決算報告

決算書P1 消費税及び地方消費税込み

収益的収入及び支出（経営活動に伴い発生する収支）

収入は前年度比 1.7%増の2,458,339千円、支出は前年度比 1.0%減の2,209,793千円

収入決算額 2,458,339 千円

(前年度比 40,920 千円 1.7 % 増)

支出決算額 2,209,793 千円

(前年度比 Δ 21,365 千円 1.0 % 減)

2. 損益計算(純利益)

決算書P3 消費税及び地方消費税抜き

純利益(決算報告の収益的収入及び支出から消費税及び地方消費税を控除して算出)

令和3年度の純利益は171,186千円を計上（前年度比38,211千円増、28.7%増）

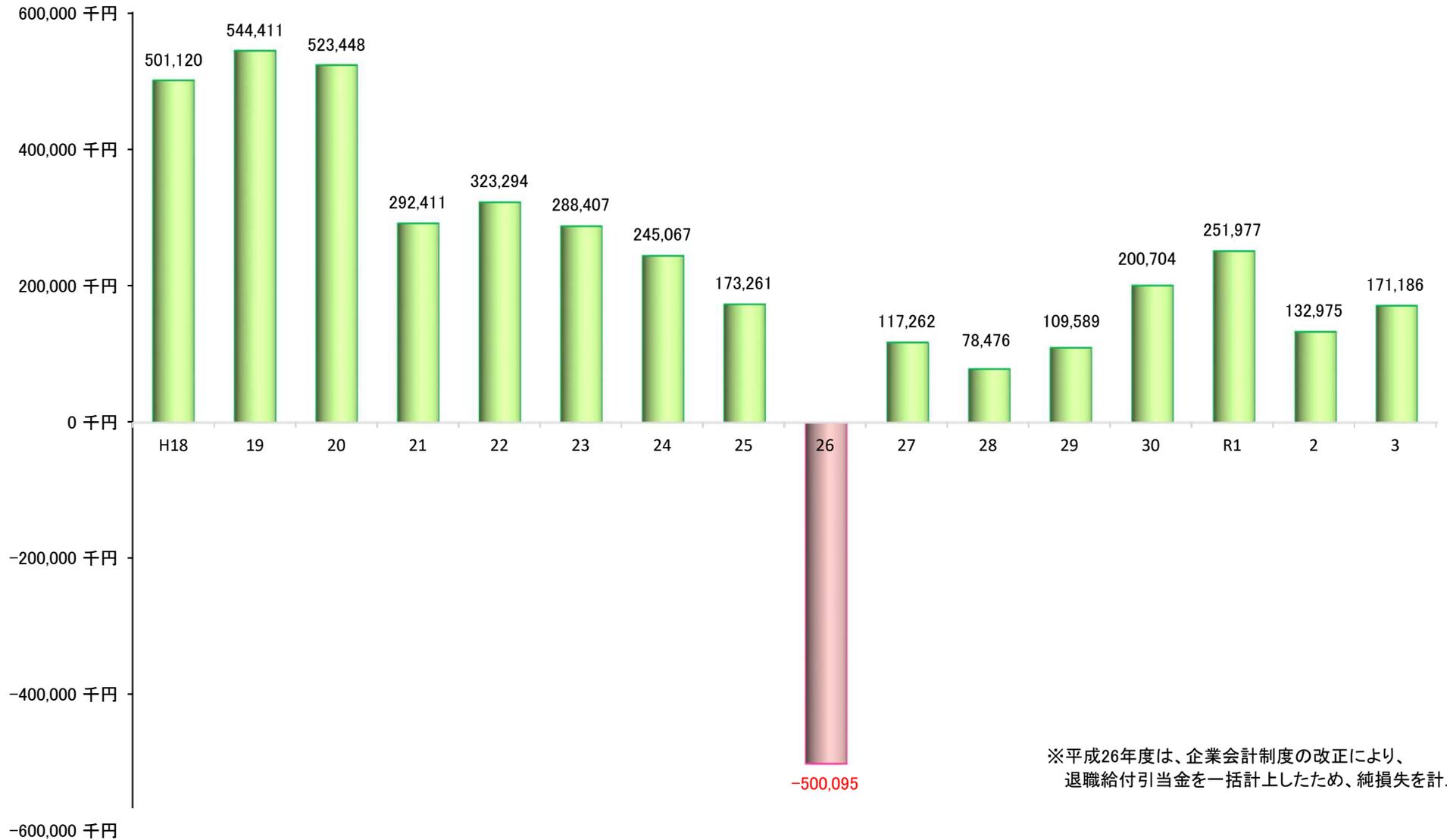
収入決算額 2,247,230 千円

支出決算額 2,076,044 千円

純利益 171,186 千円

(前年度比 38,211 千円 28.7 % 増)

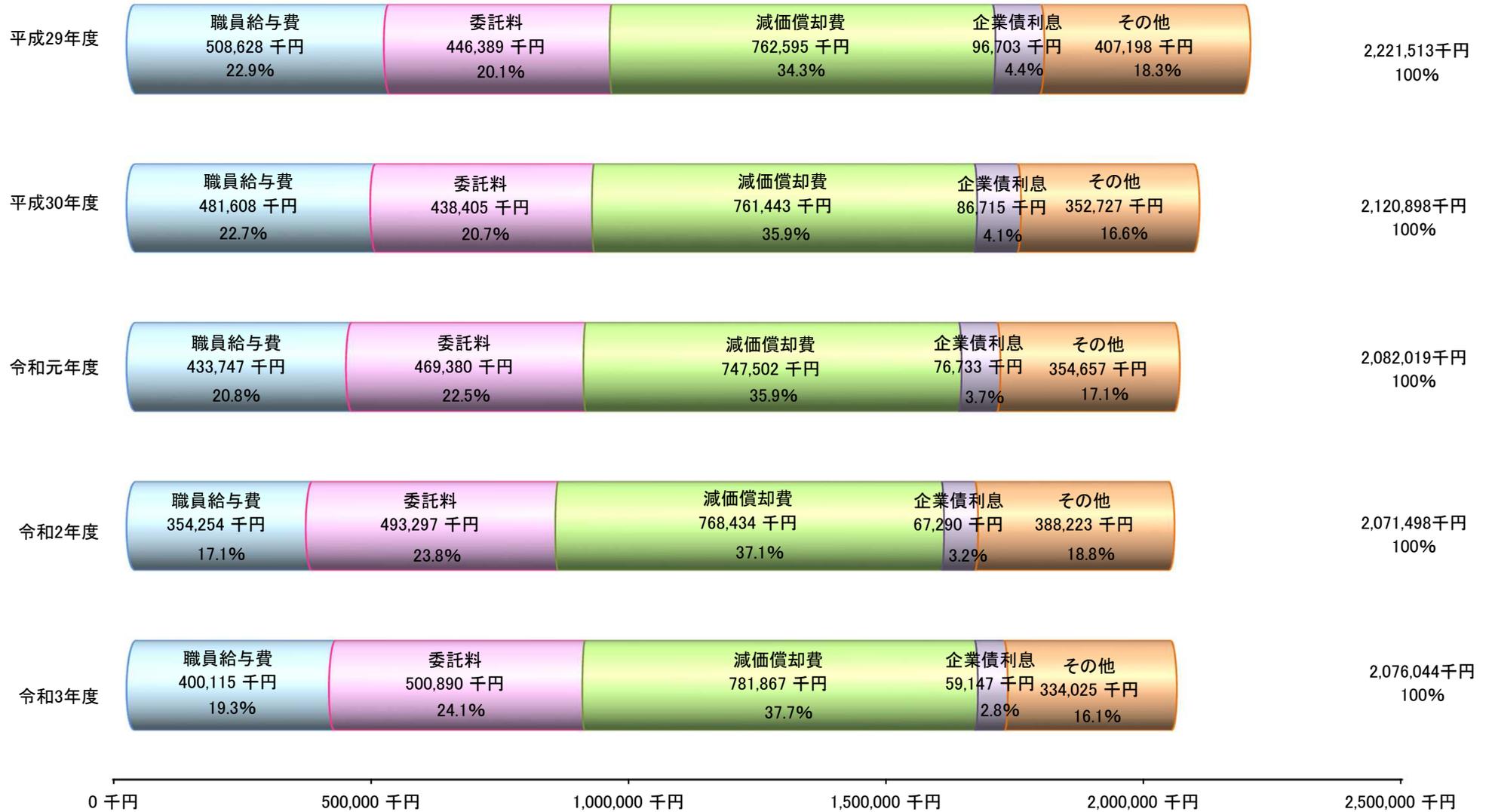
(参考)純利益(純損失)の推移



(参考)収入決算額の推移



(参考)支出決算額の推移

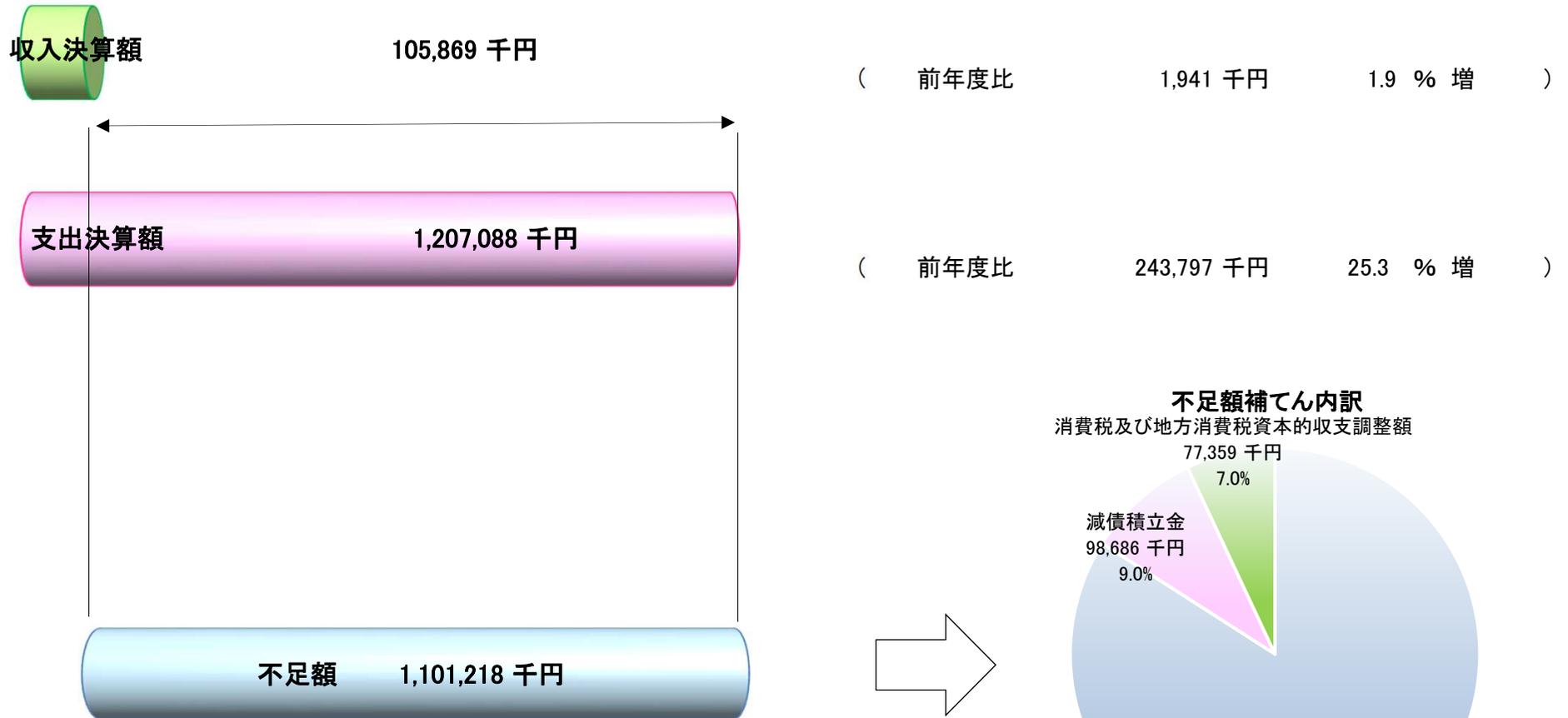


3. 決算報告

決算書P2 消費税及び地方消費税込み

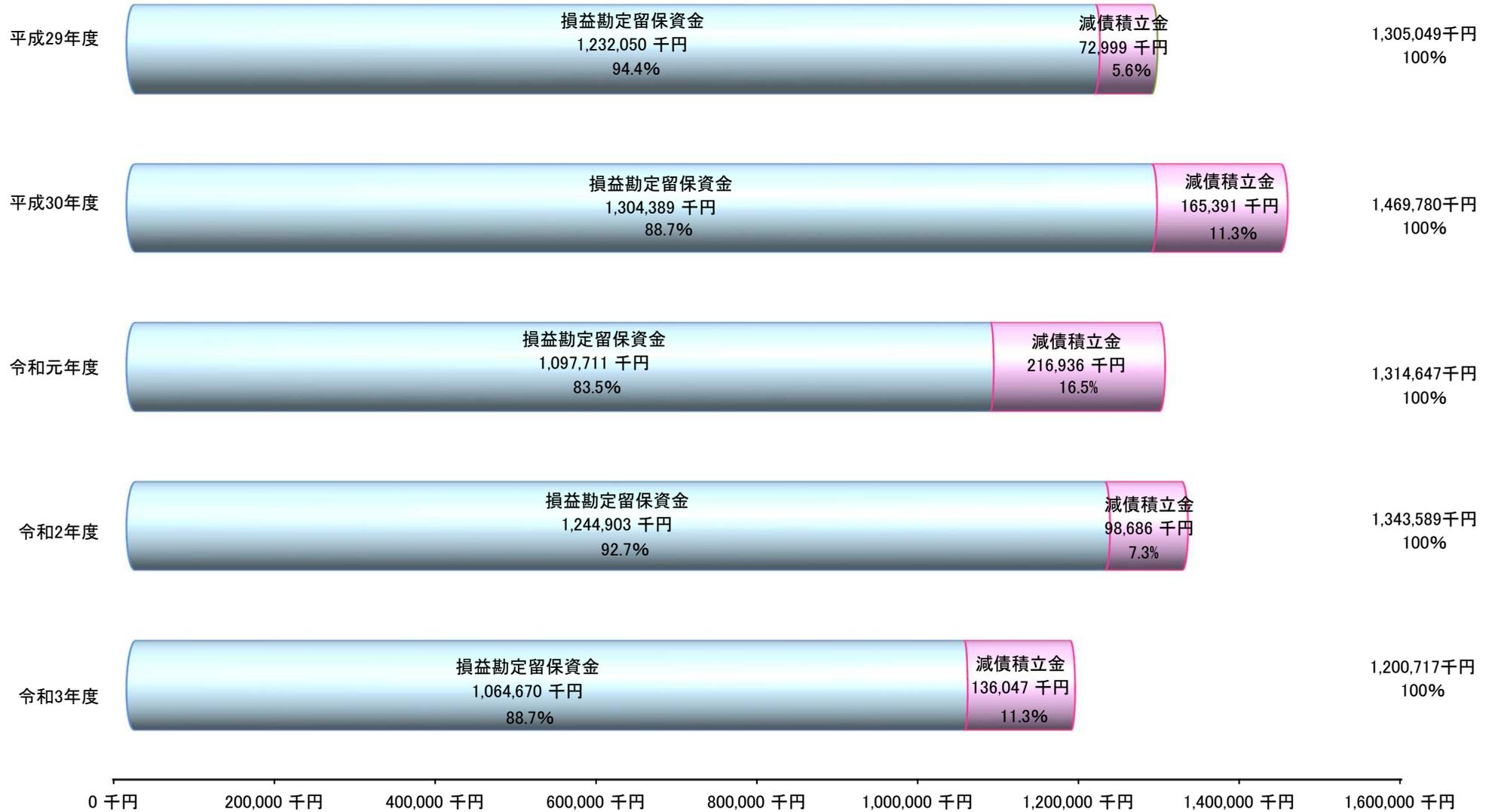
資本的収入及び支出（水道施設整備などに伴い発生する収支）

収入は前年度比 1.9%増の105,869千円、支出は前年度比 25.3%増の1,207,088千円



不足額については、過年度分損益勘定留保資金や減債積立金等を充当しました。

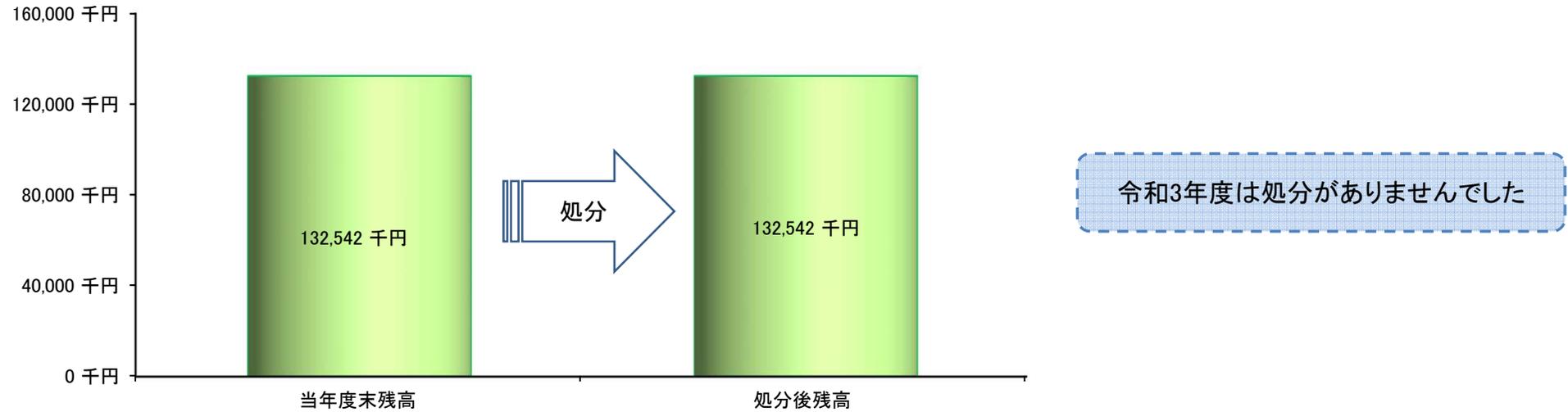
(参考)財源の推移



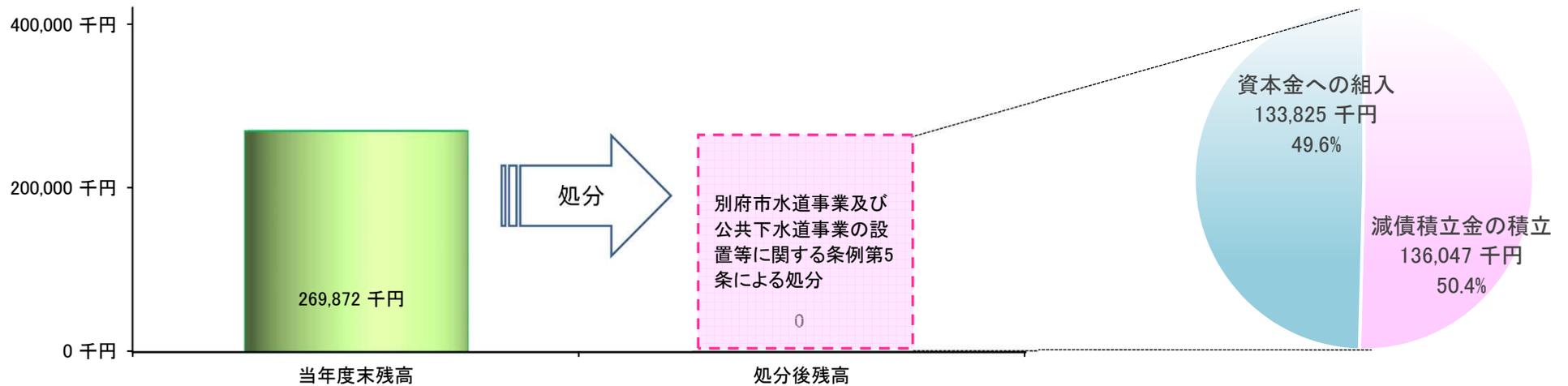
4. 剰余金の処分

決算書P4

資本剰余金(条例に基づき、処分)



未処分利益剰余金(条例に基づき、処分)



5. 令和3年度に実施した主な事業

決算書P11～17 消費税及び地方消費税込み

施設拡張改良事業 132,033千円

安全かつ安定した水道水を継続して供給するため、市内に点在する経年化した施設及び設備の更新を行い、強靱な水道施設の構築を図るため、扇山浄水場1号取水ポンプ設置工事などを実施しました。



扇山浄水場1号取水ポンプ設置工事

配水管整備事業 255,965千円

災害時における強靱性を確保し、適正な水圧及び水量を利用者に対して公平に提供できる効率的かつ経済的な配水管網の整備を、漏水防止対策の強化も考慮して、石垣東4丁目5番 200mm配水管布設替工事などを、市内各所において実施しました。(延長距離 2,369m)



石垣東4丁目5番 200mm配水管
布設替工事

朝見浄水場既存施設更新事業 429,539千円

本市の基幹浄水場である朝見浄水場内の経年化した施設及び設備について更新を行い、安全な浄水処理能力及び安定した給水体制の持続及び向上を図るため、朝見浄水場1系ろ過池(3、4号)改修工事などを実施しました。

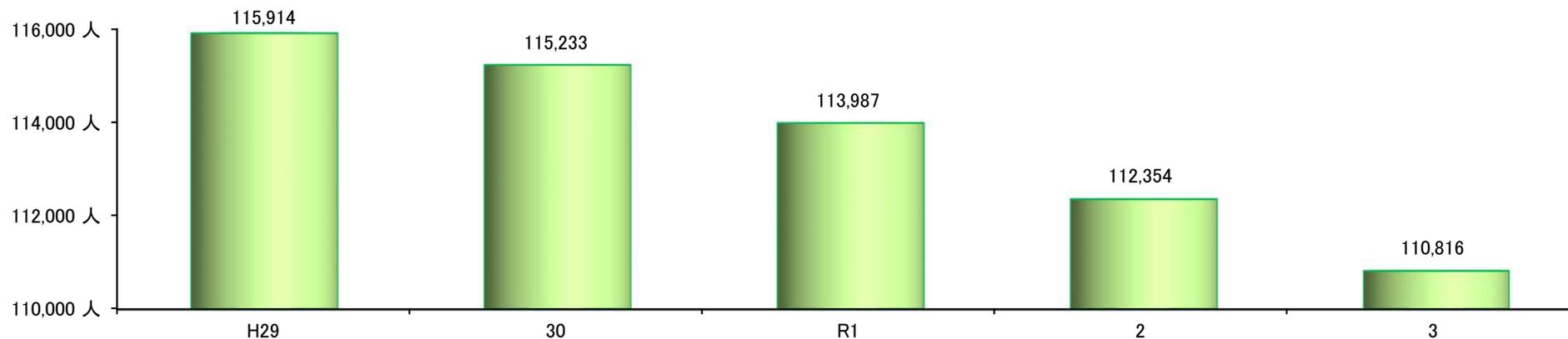


朝見浄水場1系ろ過池(3、4号)改修工事

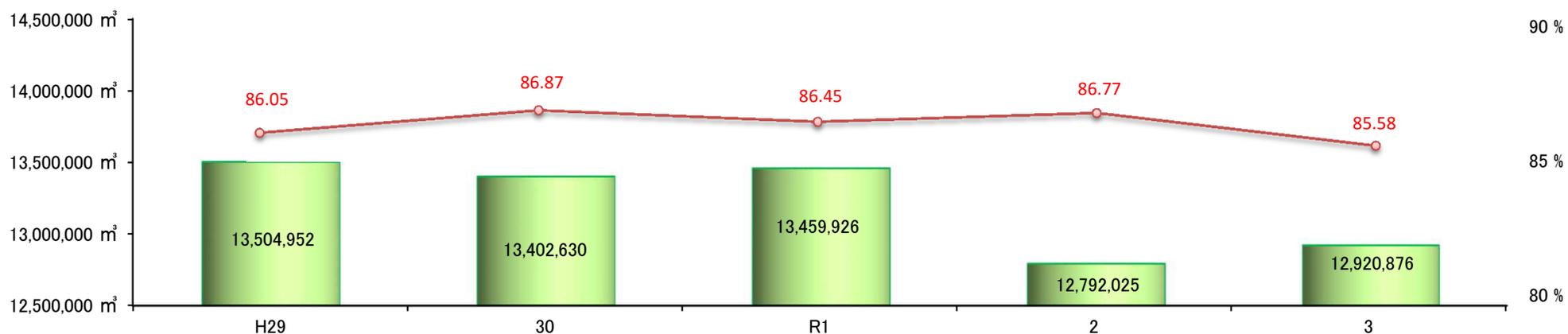
6. 業務量

決算書P20

給水人口の推移(給水区域内で水道を使用している人口)



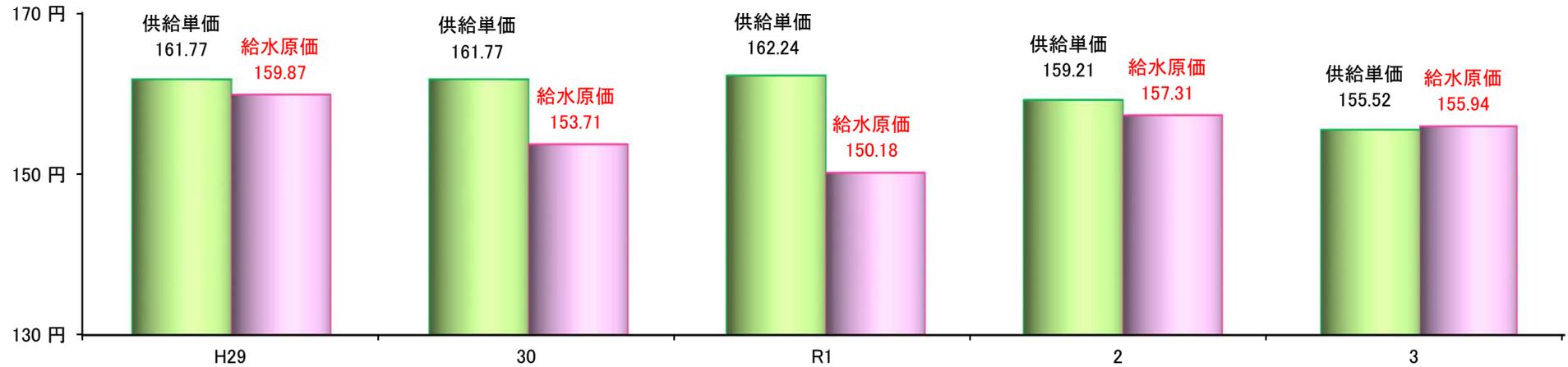
有収水量・有収率 (有収水量=水道料金算出の基礎となる水量 有収率=配水量に対する有収水量の割合で施設の効率性を示す)



7. 供給単価・給水原価

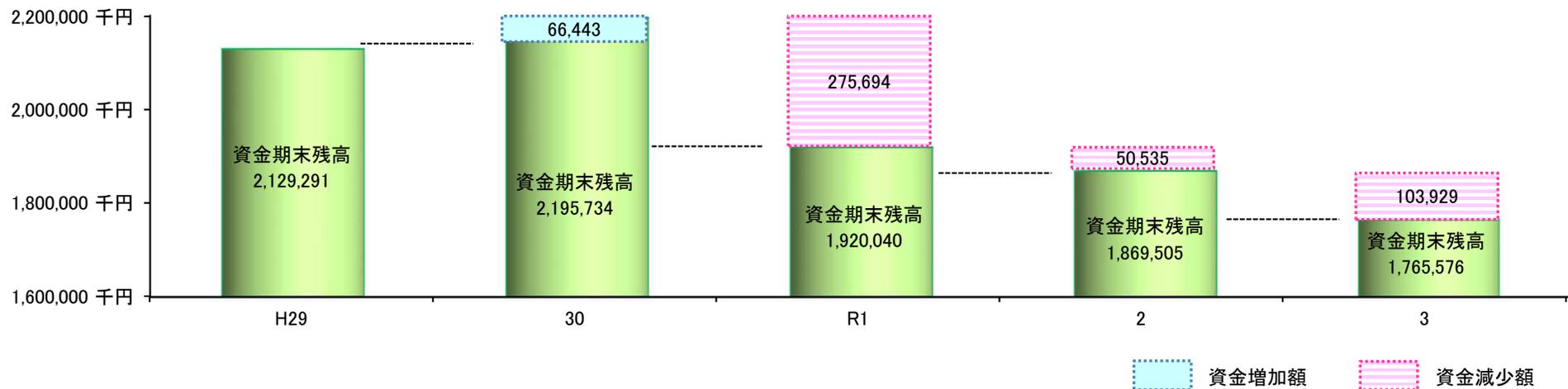
決算書P21～22

供給単価 = 1㎡当たりどれだけの収益を得たかを示す指標 給水原価 = 1㎡当たりどれだけの費用がかかったかを示す指標



8. キャッシュ・フロー（業務活動、投資活動、財務活動による現金の動きを示すもの）

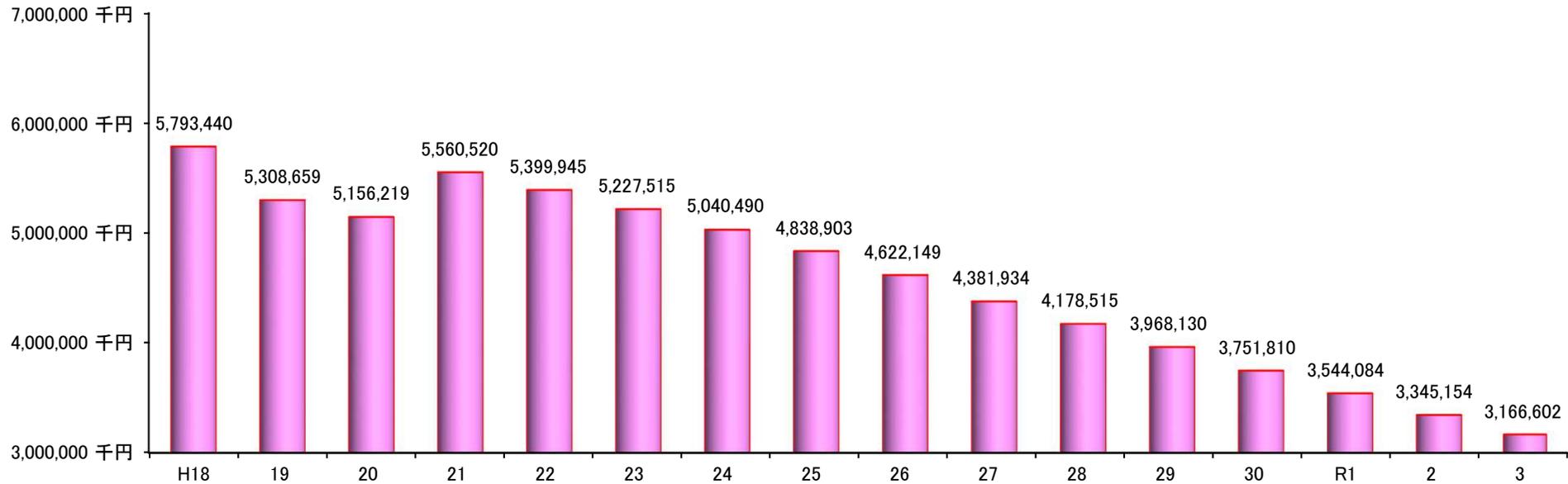
決算書P26



9. 企業債残高の推移（建設改良費の財源に充てるために借り入れた長期借入金）

決算書P38～39

年々、減少傾向で推移しています。



(参考)水道料金の状況（一般家庭用）

別府市の水道料金は、大分県下各市の水道料金と比較して、低い状況となっています。(令和3年4月1日現在)

1ヶ月10m³使用時の水道料金

1(最高)	1,705 円
∩	
9 別府市	1,334 円
∩	
14(最低)	1,100 円
県下平均	1,442 円

1ヶ月20m³使用時の水道料金

1(最高)	3,755 円
∩	
11 別府市	2,924 円
∩	
14(最低)	2,520 円
県下平均	3,057 円

MEMO

別府市公共下水道事業会計

1. 決算報告

決算書P1 消費税及び地方消費税込み

収益的収入及び支出（経営活動に伴い発生する収支）

収入は前年度比 0.9%増の1,961,348千円、支出は前年度比 2.6%減の2,124,522千円

収入決算額 1,961,348 千円

（ 前年度比 18,157 千円 0.9 % 増 ）

支出決算額 2,124,522 千円

（ 前年度比 △ 56,894 千円 2.6 % 減 ）

2. 損益計算(純損失)

決算書P3 消費税及び地方消費税抜き

純損失(決算報告の収益的収入及び支出から消費税及び地方消費税を控除して算出)

令和3年度の純損失は198,503千円を計上（前年度比46,756千円減、19.1%減）

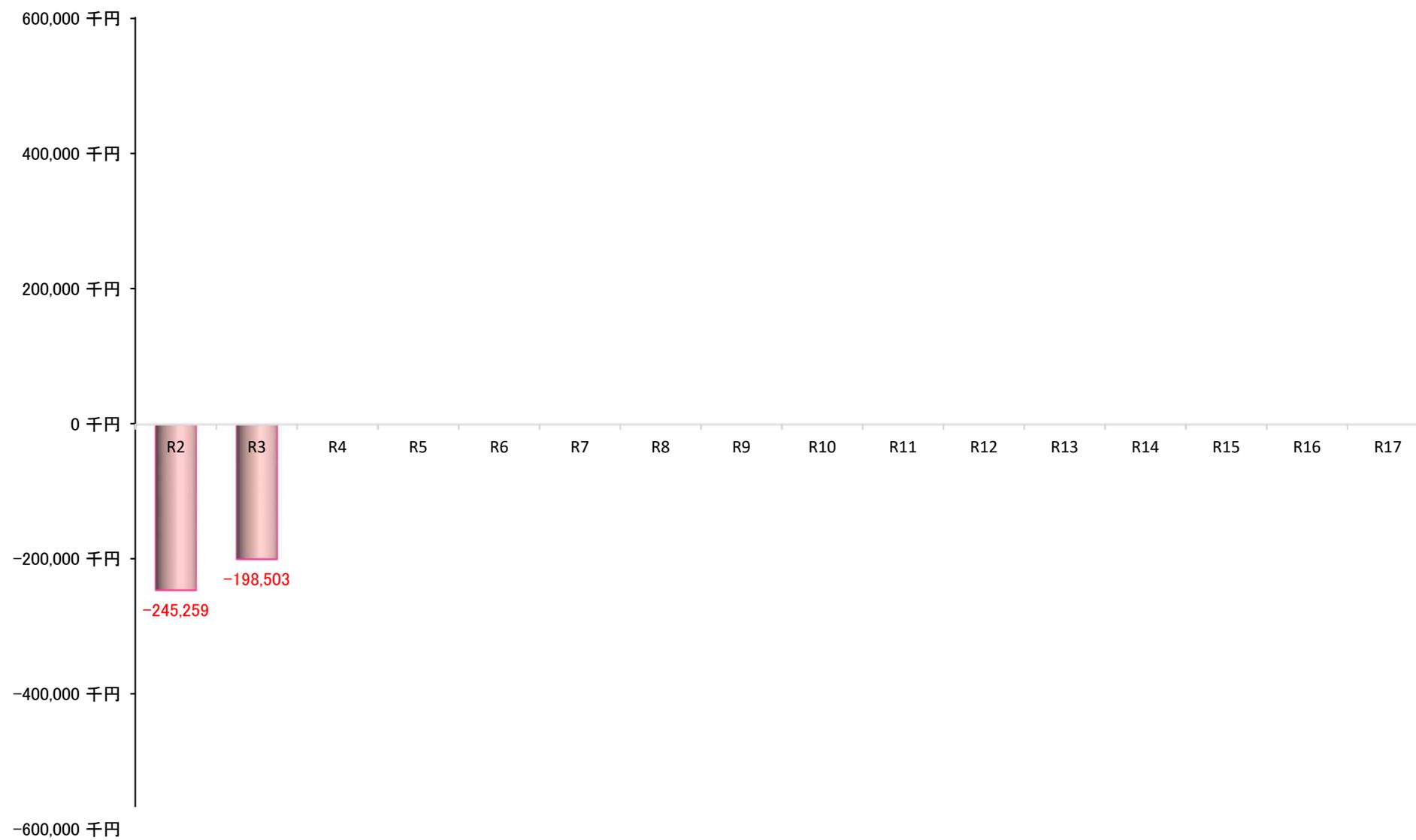
収入決算額 1,863,033 千円

支出決算額 2,061,536 千円

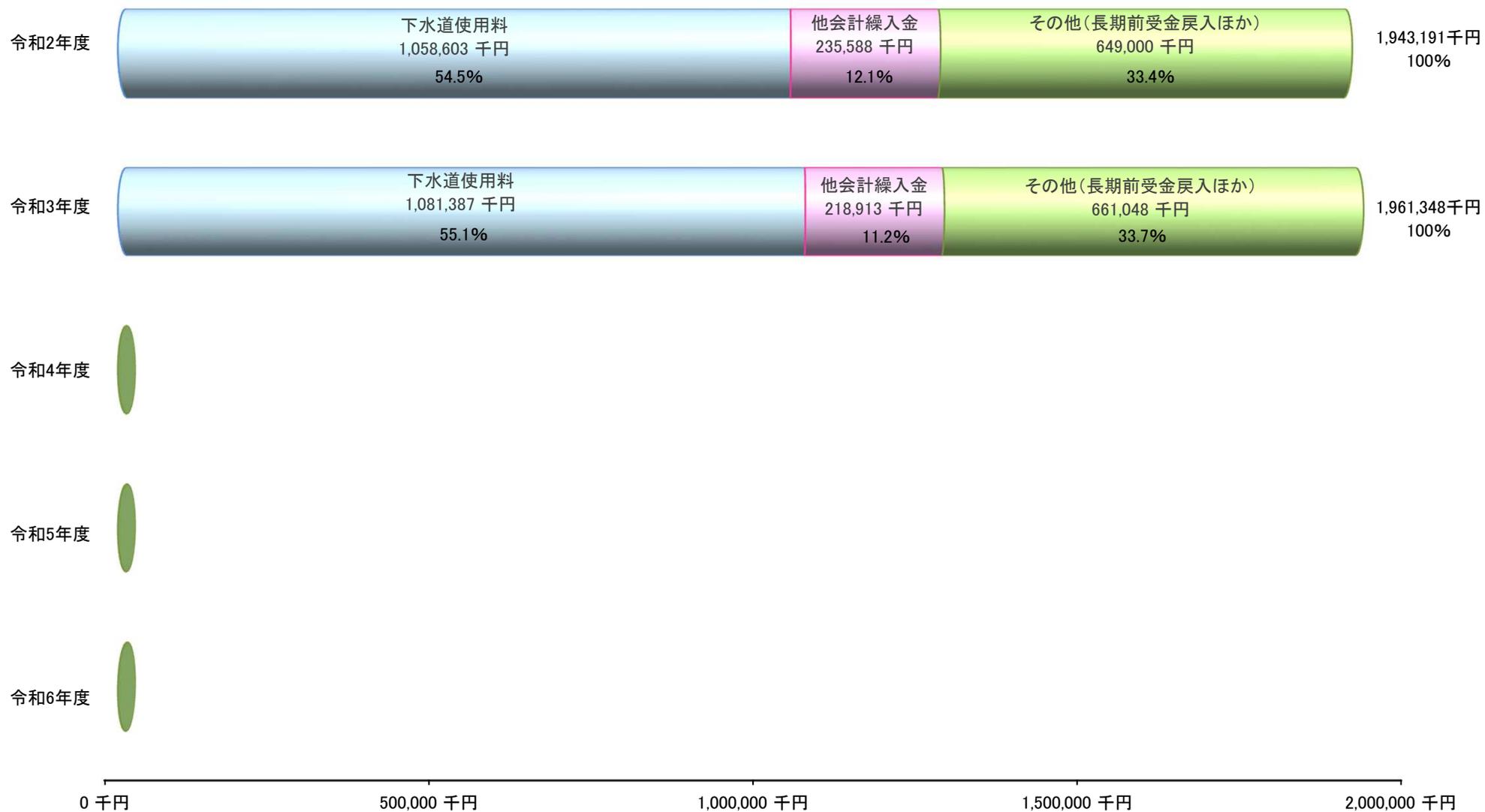
純損失 198,503 千円

（ 前年度比 △ 46,756 千円 19.1 % 減 ）

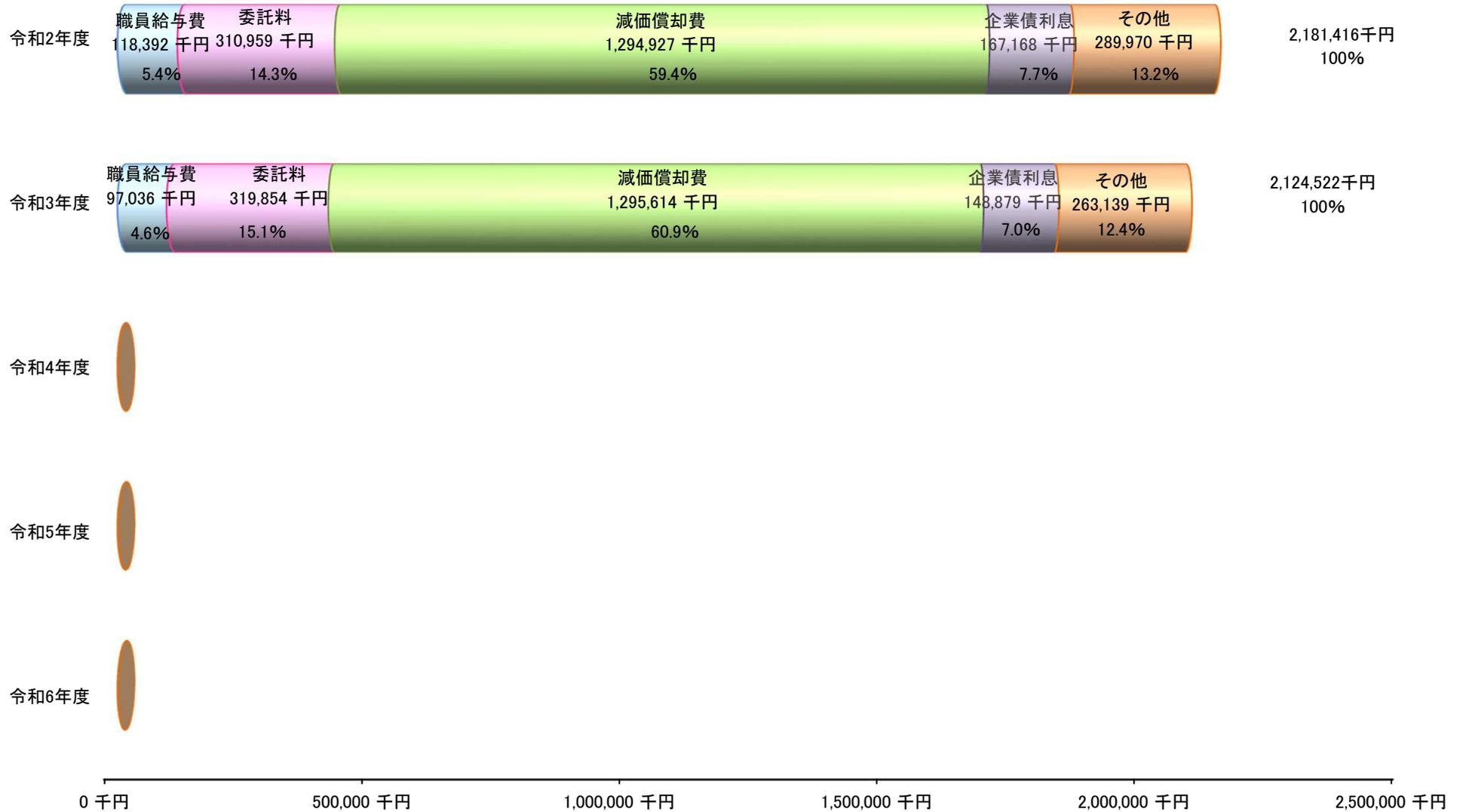
(参考)純利益(純損失)の推移



(参考)収入決算額の推移



(参考)支出決算額の推移

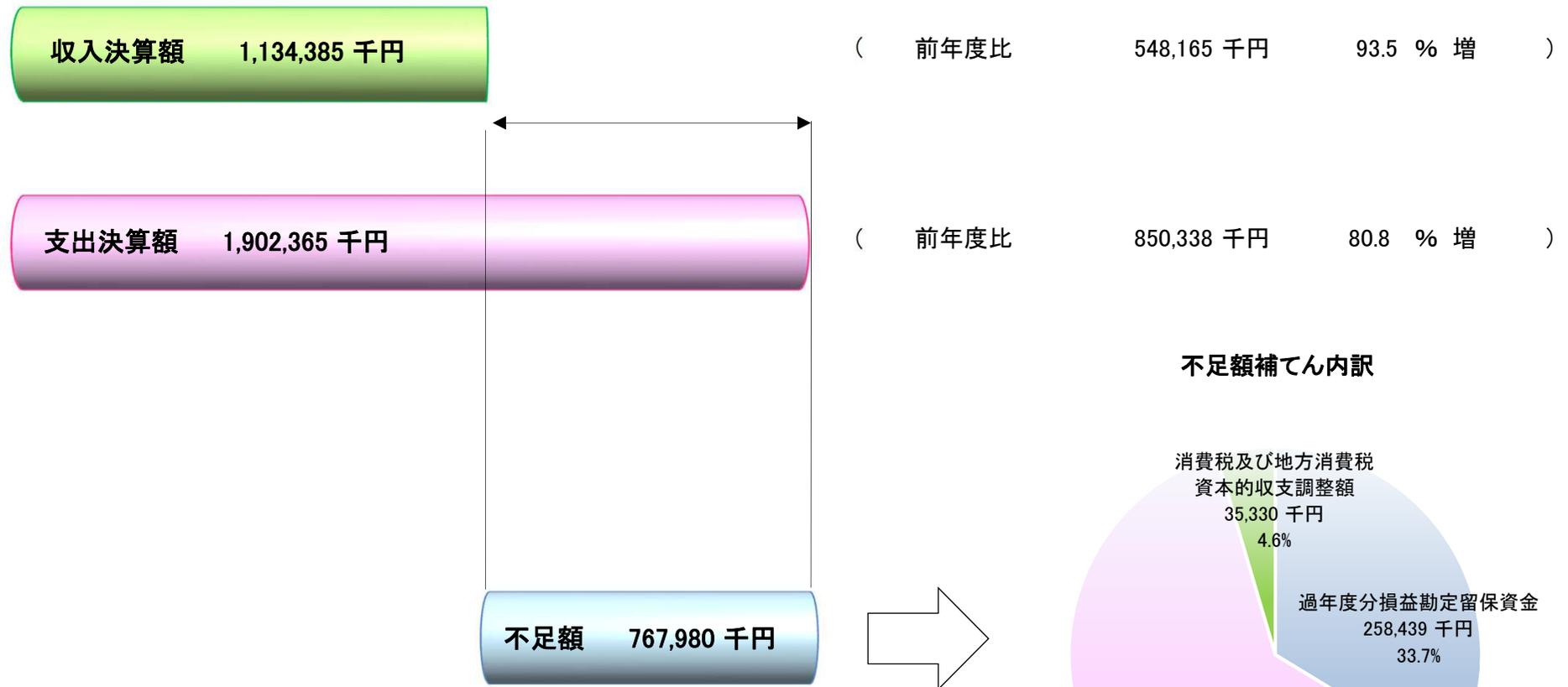


3. 決算報告

決算書P2 消費税及び地方消費税込み

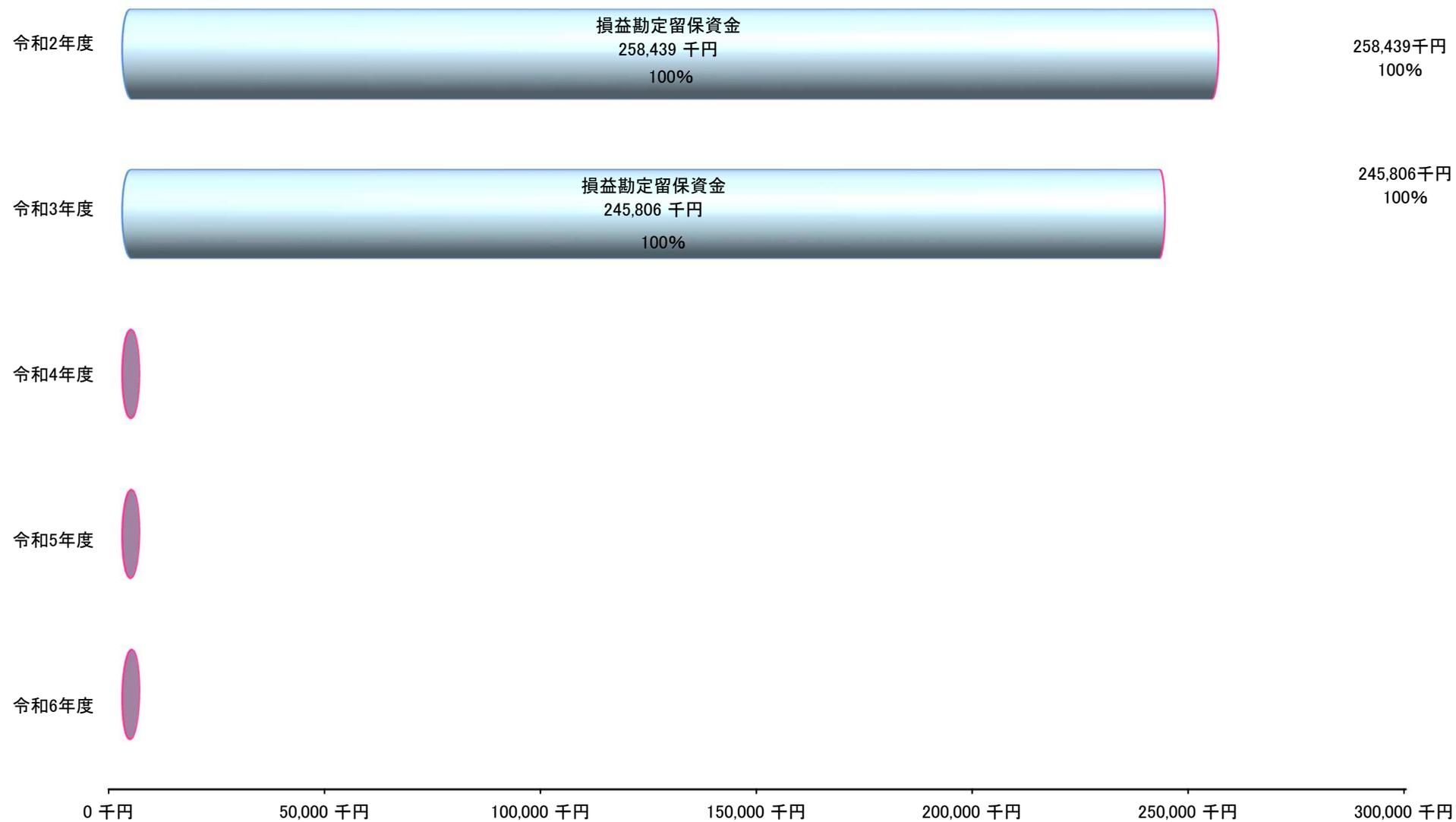
資本的収入及び支出（下水道施設整備などに伴い発生する収支）

収入は前年度比 93.5%増の1,134,385千円、支出は前年度比 80.8%増の1,902,365千円



不足額については、過年度分損益勘定留保資金や当年度分損益勘定留保資金等を充当しました。

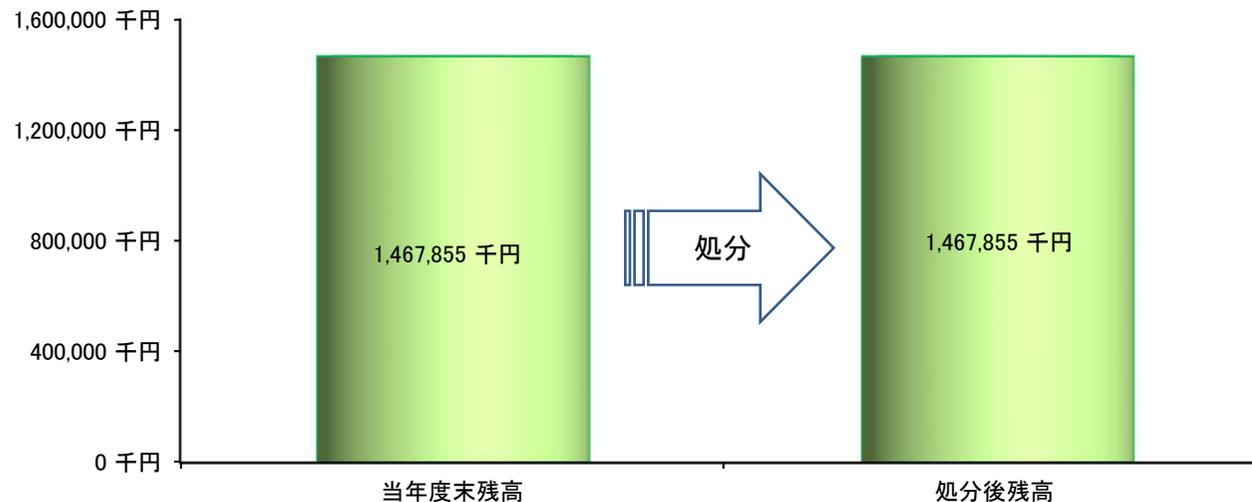
(参考)財源の推移



4. 剰余金の処分

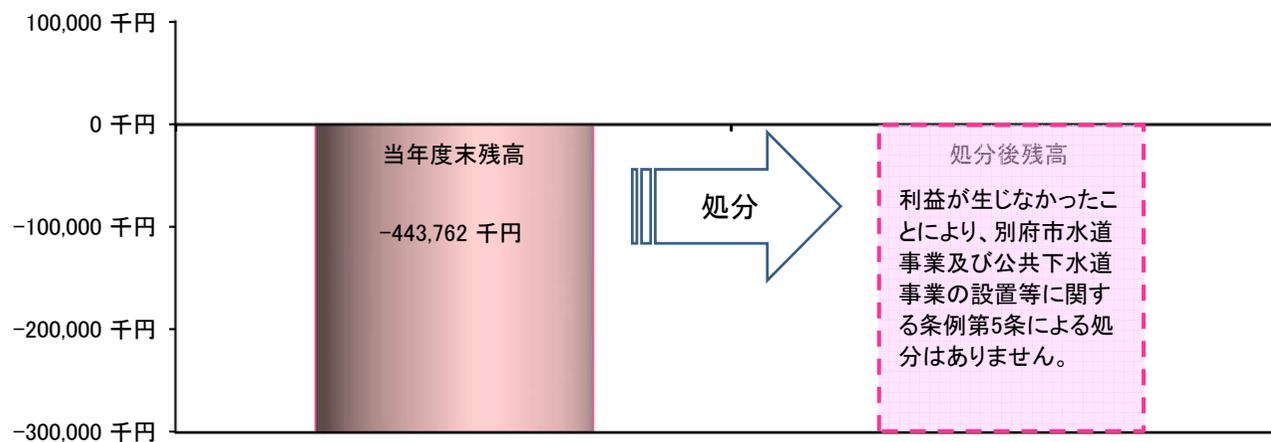
決算書P4

資本剰余金(条例に基づき、処分)



令和3年度は処分がありませんでした

未処分利益剰余金(条例に基づき、処分)



利益が生じなかったことにより、別府市水道事業及び公共下水道事業の設置等に関する条例第5条による処分はありません。

令和3年度は該当がありませんでした

5. 令和3年度に実施した主な事業

決算書P10～14、18～19 消費税及び地方消費税込み

管きよ整備事業 313,239千円

管きよ整備事業では、認可区域内の住民の要望並びに投資効果の期待できる地域を優先的に整備し、使用者の拡大を図り収益の増収に努めました。

また、老朽化した管きよの更新並びに耐震化を進め安全な污水処理施設の再構築を図り、生活排水の適切な処理による水環境保全に向けた取り組みを実施しました。

※継ぎ手部隙間
(根の侵入)



更生前



更生後



光町10番外污水管きよ更生工事

ポンプ場整備事業 140,900千円

市内に点在する污水中継ポンプ場の経年化した設備について更新を行い、強靱な施設の構築及び安定した污水処理の持続を図るため、亀川中継ポンプ場ゲート設備更新工事などを実施しました。



亀川中継ポンプ場ゲート設備更新工事

処理場整備事業 426,996千円

市内唯一の汚水処理場である別府市中央浄化センターの施設の耐震・耐津波化及び経年化した設備の更新を行い、地震時における強靭性を確保し、安定した汚水処理の持続を図るため、汚泥棟受変電設備更新工事などを実施しました。

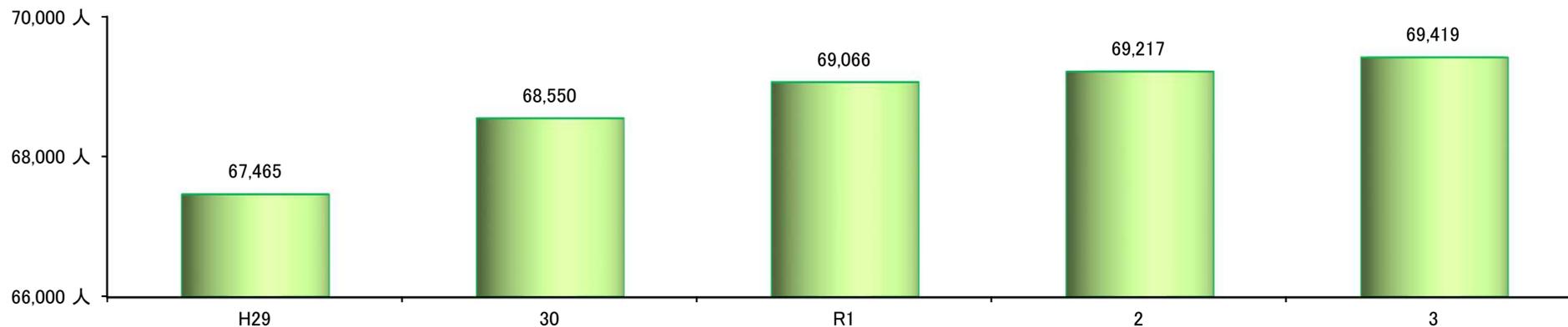


汚泥棟受変電設備工事

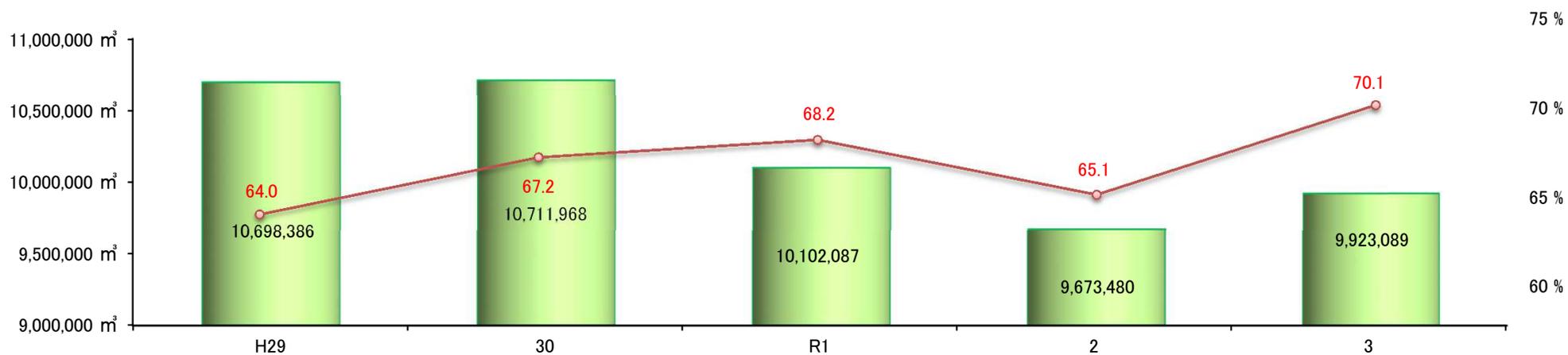
6. 業務量

決算書P15

水洗化人口(水洗便所設置済人口)の推移



有収水量・有収率 (有収水量=下水道使用料算出の基礎となる水量 有収率=汚水処理水量に対する有収水量の割合で施設の効率性を示す)

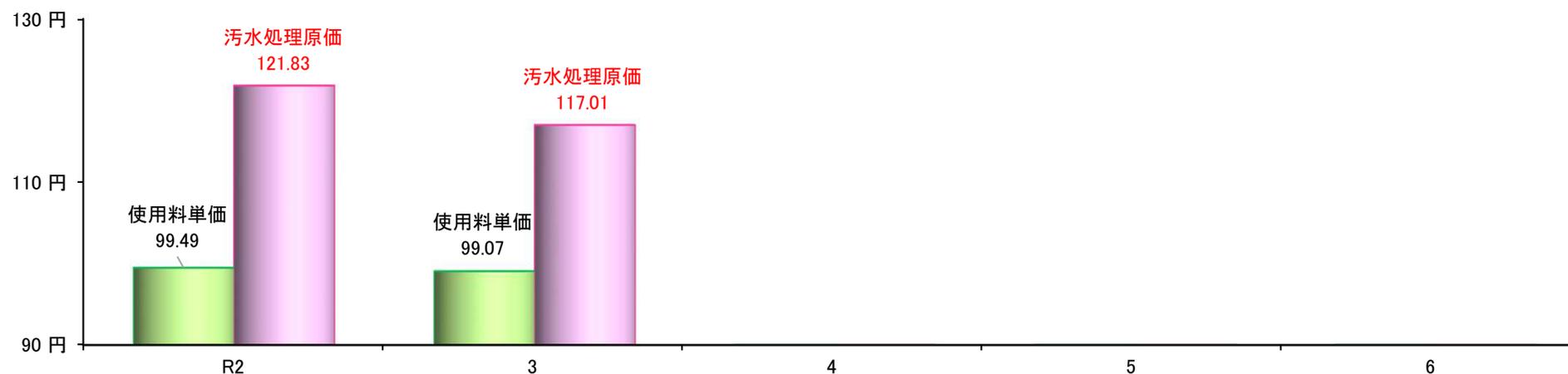


7. 使用料単価・汚水処理原価

決算書P16~17

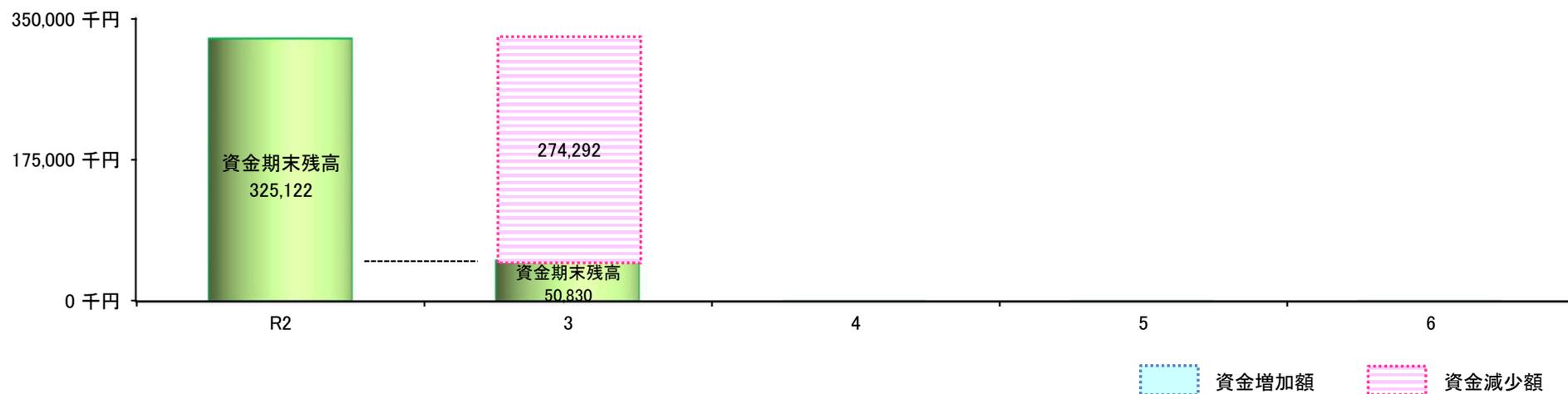
使用料単価 = 1㎡あたりどれだけの収益を得たかを示す指標

汚水処理原価 = 汚水1㎡あたりどれだけの汚水処理費用がかかったかを示す指標



8. キャッシュ・フロー（業務活動、投資活動、財務活動による現金の動きを示すもの）

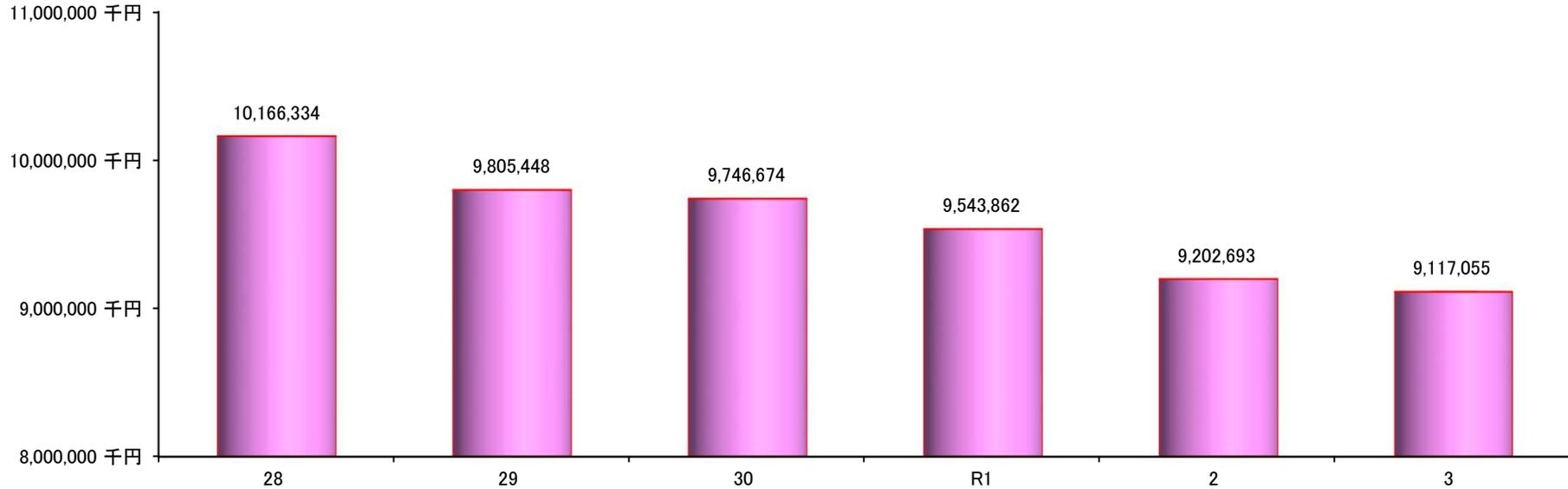
決算書P21



9. 企業債残高の推移（建設改良費の財源に充てるために借り入れた長期借入金）

決算書P30～35

年々、減少傾向で推移しています。



(参考) 下水道使用料の状況（一般汚水）

別府市の下水道使用料は、大分県下各市と比較して、一番低い使用料となっています。(令和3年度)

1ヶ月10m³使用時の下水道使用料

1(最高)	1,750 円
}	
12 別府市	930 円
}	
12(最低)	930 円
県下平均	1,368 円

1ヶ月20m³使用時の下水道使用料

1(最高)	3,680 円
}	
12 別府市	2,150 円
}	
12(最低)	2,150 円
県下平均	2,953 円

MEMO